



2022年8月1日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース第76号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。今週のカカオニュースを配信させていただきます。

1. ガーナとコートジボワールは8月より22/23新物の産地 differential を引き上げ(7/31)

世界最大のカカオ生産国であるコートジボワールとガーナは、7月29日(金)、生産者の貧困に取り組む一環として、チョコレートメーカーとトレーダーが豆に支払うプレミアムを来月引き上げると発表した。ロイター通信によると、コートジボワールのコーヒー・ココア評議会(CCC)は、7月はトン当たり-125ポンドから8月はプレミアムをゼロに設定し、ガーナの規制当局(COCOBOD)は8月にトン当たり-50ポンドから+20ポンドに引き上げる予定であるという。ガーナの前産地差は、ガーナの豆が一般的に高品質であることから高く設定されている。

西アフリカの2カ国は、世界のココアの60%以上を生産しており、コートジボワール・ガーナ・ココア・イニシアチブ(CIGCI)の一環として、産地差の共同発表を始めている。このプレミアムは、各産地の品質に応じて買い手側がロンドンの先物市場価格の指標価格に対してどれだけ差分を支払うかという、通例“産地プレミアム”と呼ばれるもので、結果的には貧困にあえぐ生産者に支払われる価格を引き上げる効果もあるものだが、多国籍カカオトレーダーやチョコレートメーカーからの交渉圧力により、しばしばゼロを下回ることもある。

近年は産地プレミアムがマイナス値になる事が続いたが、これにより生産者を貧困から守るためにコートジボワールとガーナ当局が2019年にカカオ1トンの価格に導入した400ドルの生活所得差(LID)という新しいプレミアムの一部を事実上減少させている事になっている。

「私たちの野望は、もはやマイナスの産地プレミアムでカカオを決して販売しないことです。それは、私たちの生産者がカカオに対してまともな報酬のある収入を得られるようにすることです」とCIGCI事務局長のAlex Assanvo氏は述べています。



「そして、これを達成するためには、産地プレミアムは、LID 制度導入以前のように再びプラスになり、勿論 LID も適用されなければならない。」と述べた。

6 月下旬、EU、コートジボワール、ガーナは、カカオセクターの代表者とともに、カカオの生産と取引の経済、社会、環境の持続可能性を改善するための意欲的なロードマップ「持続可能なカカオに関する同盟」を共同承認した。EU は世界最大のカカオ豆及びカカオ加工品の輸入地域であり、世界の輸入量の 60% を占めている。コートジボワールとガーナは、カメルーンとともに EU 市場へのカカオの主要供給国であり、2021 年には 46 億ユーロの金額に達しました。アフリカ 3 カ国は、EU 市場に対すいて、それぞれの経済連携協定に基づき、無税・無割当のアクセスが可能である。

2. ガーナ 21-22 クロップは過去 12 年間で最低の 68.5 万トンになる見通し (7/31)

2021-2022 年のガーナのカカオ生産数量は過去 12 年で最も低い数量になる可能性が高いと報じられた。主な竜としては、長引いた干ばつがカカオポッドの生産に悪影響を与えた事と主たる産地のいくつかで金の違法採掘を小規模な業者が行った事が理由としている。

暫定的な数字ではあるが、9 月末までの予想収穫量は 68.5 万トンであり、昨年の 105 万トンと比較し、かなり大規模な生産数量の縮小となることを示している。

新シーズンの開始以前はカカオ産業の統括組織であるココポッドは、収穫量の予測値を 95 万と発表していたが、カカオの果実が成長する時期に全く雨が降らず干ばつが長引いたことで大きな減少につながった。

また、ココポッドが 5 月に発表したところによると、ガーナ全体の作付面積の約 2% に当たる 1 万 9 千ヘクタールのカカオ農園が金の小規模採掘業者によって破壊された事もあった。

更に、上記に加えて Swollen Shot Virus = カカオの病気で枝が腫れあがり、すぐに収穫量が落ち、数年以内に木が枯れてしまう影響が出た地域もあり、全体として非常に生産性の低い年となったようだ。

6 月 2 日現在の収穫量は前年同時期の 96 万 5, 493 トンに対して、約 64 万 1, 000 トンとなっており、6 月～9 月末のライトクロップの収穫量で 40, 000 トン程度が使いされる見込みである。ガーナ・ココポッドの広報担当であるフィフィボアフォ氏は今年の正確な生産数量についてコメントは控えたが、「次回の収穫は必ず力強く回復するであろう」という見込みについてのみ強調した。

3. アフリカ・カカオ UPDATE : 雨が止み、生産者は肥料の不足引き続き直面している。(7/27)

- ・コートジボワールとガーナでは豪雨が止んだ。
- ・西アフリカの生産者は作物の収穫量を維持するための肥料不足に苦しんでいる。

コートジボワールの生産者は、豪雨が止んでも化学薬品や肥料の入手に苦労しており、害虫や収穫量の減少への懸念を強めている。

世界のカカオの約 65% を栽培するコートジボワールとガーナは現在、晴天に恵まれており、カカオ豆の生産量を増やすために必要な投入資材である肥料と農薬の散布に最適な状況になっている。

南部の町ボンジに住むコートジボワールの生産者は「肥料が不足しているので、それを待つしかない」と、国内の生産者の悩みを代弁する。「カカオの木は新鮮ですが、さやが腐っているものもあり、そのため薬剤散布が必要なのです」。

世界第 2 位の生産国であるガーナでは、生産者は肥料を入手することをほとんどあきらめているそう。首都アクラの北 100 キロにあるクワベン生産者、マイケル・アチャンポンは「今シーズンは肥料を使わずに仕事しなくてはならない。業界の監督機関であるガーナ・ココポッドが配布する薬剤の供給が遅れているので、我々はなす術がない」と語った。

ナイジェリアでは、適度な日照と穏やかな雨の組み合わせと、化学薬品の散布が収穫を後押しするだろうと言われており、生産者は収穫の見通しに明るい予測を立てている。

ナイジェリア南東部 Abontakon 村の生産者は「カカオ農園の環境は今のところ問題なく、まだブラックポッド病の被害は出ていませんが、生産者は雨の合間に木に農薬を散布して、この病気の発生を防いでいます」と述べた。

4. ガーナ、22/23 カカオシーズン向けに 13 億ドルのシンジケートローンを承認(7/31)

ガーナ通信 (GNA) によると、ガーナの国会は、同国の主要農産物輸出の主要換金作物であるカカオの 2022/2023 年シーズンの購入資金として、13 億ドルのシンジケートローンを承認した。

この債権担保の貿易金融は、ガーナ・ココア委員会 (COCOBOD) と銀行・金融機関のコンソーシアムとの間で行われ、政府が保証人として機能するものだ。

国会財務委員会の Kwaku Kwarteng 委員長 (以下、クルワデン) は、COCOBOD によるカカオ豆の購入、品質保証、保管、輸出に関連する業務をうまく管理するために、このシンジケートローンが不可欠であると判断したと述べました。

しかし、同氏は、議員らが融資制度と印紙税免除の要請に関する書類を精査する十分な時間が与えられていないことに懸念を示しました。

「即座の融資と要請の緊急承認が国益にかなうことに同意しつつ、委員会は、今後、COCOBOD の年次シンジケート融資 (および免除要請) を早期に議会に提出し、議会の開催期間が終わる前に議員がそれを熟読し承認する時間を確保すべきだと強く主張する」と指導をしている。

ガーナは、生産者からカカオを購入するために毎年資金を借りています。COCOBOD は 2019 年にアフリカ開発銀行 (AfDB) から確保した 6 億ドルの融資のうち、主に作物予測と不利なカカオ価格への懸念から残りの 2 億 5 千万ドルをキャンセルした経緯もある。

クワルテン氏は、ココボッドが 2022/2023 年の作期について、ココア生産は控えめに 85 万トンと予測したことと言及し、それは近年のココア生産の傾向と COCOBOD が採用している適切な農法に基づいて計算されていると述べました。ガーナは、干ばつでさやが枯れ、違法な金鉱がプランテーションを損傷したため、12 年間で最も少ないカカオの収穫に向かうと先般ニュースが流れたばかりだ。

ガーナの経済状況は予断を許さない状況が続いている。国会議員たちは、迫りくる経済危機と 10 億ドル近い財政赤字を背景に国内ではとても国内のカカオ豆を全量買い付けるだけの資金を負担することは出来ず、今回も 13 億ドルの融資を承認した。

6 月には年間インフレ率が 18 年ぶりの高水準となる 29.8% に達し、債務残高対 GDP 比は 78% 近くに達し、通貨価値は今年に入って 22.6% 下落したため、ガーナ政府は 7 月初めに国際通貨基金 (IMF) に経済の安定化のための支援を依頼した。また、中央銀行は今年、国債の売却を食い止め、物価上昇圧力を抑えるため、主要金利を 450 ベーシスポイント引き上げた。

5. ナイジェリア・アクワイボム州、カカオのミッドクロップを終了(7/30)

2021-22 年のミッドクロップ・カカオの収穫がナイジェリアのアクワイボム州で終了したと、トレーダーが金曜日に発表した。アクワイボム州の生産者は 4 月にミッドクロップの収穫を始めたが、同州の降雨が遅かったため生産は芳しくなかったとトレーダーは述べた。

同州の天候は「雨と晴れの混合」で、生産者は 2022-23 年のカカオのメインクロップの収穫が 9 月には始まるだろうと彼は述べた。

アクワイボム州は、ナイジェリア南東部にある3つのカカオ生産州のうちの1つです。他の2州はアビア州とクロスリバー州で、全国のカカオ生産量の約30%を占めています。

一方、アビア州でも収穫が終わり、8月中旬からのメインクロップに注目が集まっていると、ナイジェリア・ココア協会の関係者マジー・ウチェは述べています。

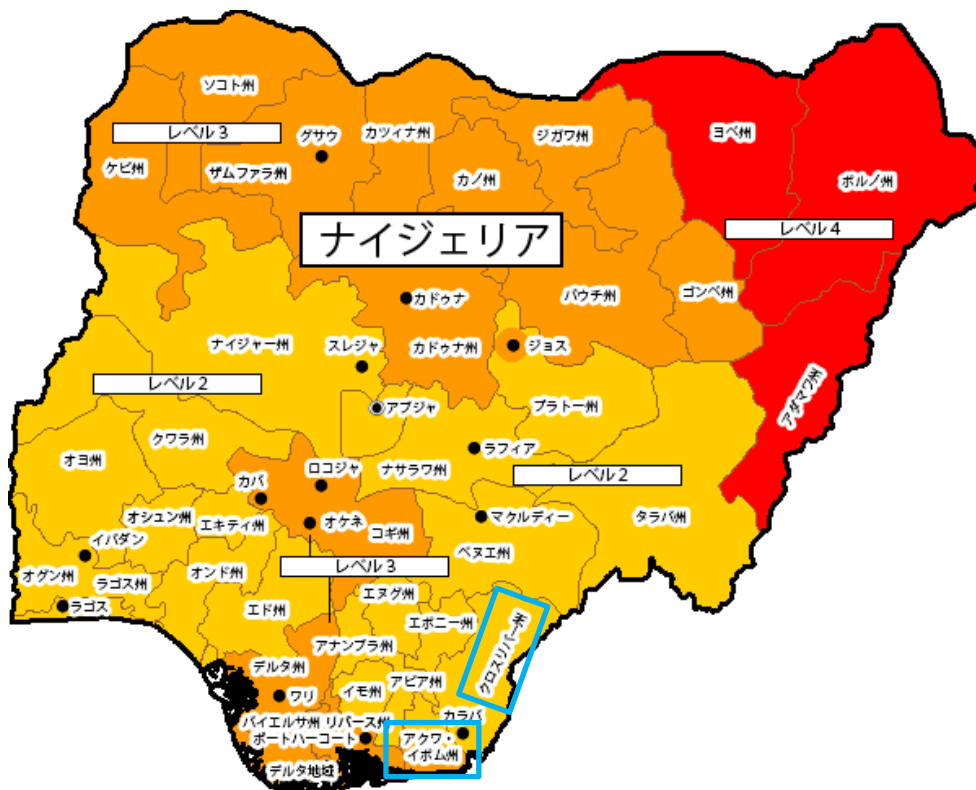
6. ナイジェリア・クロスリバー州、100万本以上のカカオの苗木を配布(7/28)

ナイジェリアのクロスリバー州は2022年に生産量を増やすために100万本以上のハイブリッドカカオの苗木を配布したと、ナイジェリア・ココア協会の職員であるGodwin Ukwu氏(以下、ウクウ)が木曜日に発表した。ウクウ氏は2020年、国内第2位のカカオ生産州であるクロスリバーが2028年までに年間生産量を約10万トンに引き上げることができると予測しました。

オンド州農業省のカカオ担当のトバ・アデノウロ氏は、100万本のカカオの苗木があれば1000ヘクタール分のカカオを植えることができると述べました。

ナイジェリア・ココア研究所の科学者によれば、ハイブリッド・ココアは、旧来の品種が4~5年かかるのに比べ、18~24ヶ月で作物を収穫できるそうです。

ウクウ氏は、協会は今後も苗木を提供し続け、生産量の増加を目指すと述べています。



7. ナイジェリアの6月ココア輸出は前年比38%減(7/26)

ナイジェリアの商業ハブ、ラゴスのアパパ港で港湾検査機関や船会社がまとめたデータによると、2022年6月度のカカオ豆及びカカオ加工品の輸出量は前年の2万1635トンから1万3385トンに減少した。

カカオ輸出会社サウスゲートのマイク・オゴド社長が電話で語ったところによると、この落ち込みは同国のカカオ生産地帯すべてで天候が悪く、「ミッドクロップ全体の不作」によるものだという。

6月の出荷量は、5月に輸出量の12,497トンを7%上回った。

輸出先では、アジア諸国は2ヶ月連続でナイジェリア産カカオの最大の輸出先で、7,699トンで全体の58%を占め、うちインドネシアが6,492トン、マレーシアが1,207トンを受け入れました。

欧州向けは4,954トンで、オランダが2,568トンと最も多く、その他イタリア、ベルギー、スペイン、フランスが輸入した。北米向け輸出は732トンで、カナダが唯一の輸入国であった。

また、6月のココアバター輸出量は950トンで、前年同月は1,295トン、5月は1,351トンだった。

ドイツ、オランダ、スペインがナイジェリアのココアバター輸出先である。

8. 菓子のハーシー、4-6 月期は増収増益 見通し上方修正(7/29)

菓子大手の米ハーシーが 28 日発表した 4-6 月期（第 2 四半期、7 月 3 日まで）決算は増収増益だった。同社は値上げにも関わらず好調な販売が持続しているとして、2022 年通期の業績見通しを上方修正した。

4-6 月期の売上高は 19%増の 23 億 7000 万ドルで、調査会社ファクトセットがまとめたアナリスト予想の 22 億 4000 万ドルを上回った。為替変動や事業買収・売却の影響を除くと、14.1%の増収になる。

利益は 3 億 1500 万ドル（前年同期は 3 億 0120 万ドル）、1 株利益は 1.53 ドル（同 1.45 ドル）。特別項目を除いて調整した 1 株利益は 1.80 ドル。ファクトセットによると、アナリスト予想は 1.69 ドルだった。

22 年通期について、ハーシーは売上高の見通しを 10~12%増から 12~14%増に引き上げた。1 株利益の見通しは 8~11%増から 9~12%増に修正した。

9. ネスレ、1-6 月期は増収減益 通期の増収率見通しを上方修正(7/28)

スイスの食品大手ネスレが 28 日発表した 1-6 月期（上半期）決算は、純利益が 52 億 5000 万スイスフランと、前年同期の 59 億 5000 万フランから減少した。減損損失と税負担が響いた。

売上高は 455 億 8000 万フランで、前年同期の 417 億 6000 万フランを上回った。為替変動や事業の買収・売却の影響を除く既存事業ベースの増収率は 8.1%で、ピューリナ・ペットケア部門がけん引役だった。

同社は通期見通しについて、既存事業ベースの増収率を従来予想の 5%から 7~8%に上方修正した。基調的な営業利益率は従来予想の 17~17.5%から約 17%に変更した。

10. コートジボアール新物、7/18-7/25 の週間着荷数量は 14,291 トン (7/25)

政府のデータに詳しい人物によると、コートジボワールの生産者は先週、14,291 トンのカカオを港に出荷した。前年同時期の数量は 9,944 トンであった。10 月 1 日のシーズン開始からの総着荷数量は、約 236.5 万トンとなっており、過去最高であった昨年同時期の推定値 235 万トンを僅かに上回る数字。下記は、同国内のカカオ豆の買受先の一覧である。最大の買い手は、バリーカレボアのグループ企業である Saco 社や、Olam International の関連企業である Outspan, や Cargill などの企業である。

*以下は、10 月 1 日から 7 月 24 日までの上位各社の購入量（単位：トン）の表である。

会社名	購入数量(トン)
カーギルグループ	317,240
Saco 社(バリーカレボグループ)	304,903
アウトスパン(Olam グループ)	298,434
Touton 社	147,456
S3C 社	144,689
その他企業	1,152,582
合計	2,365,304

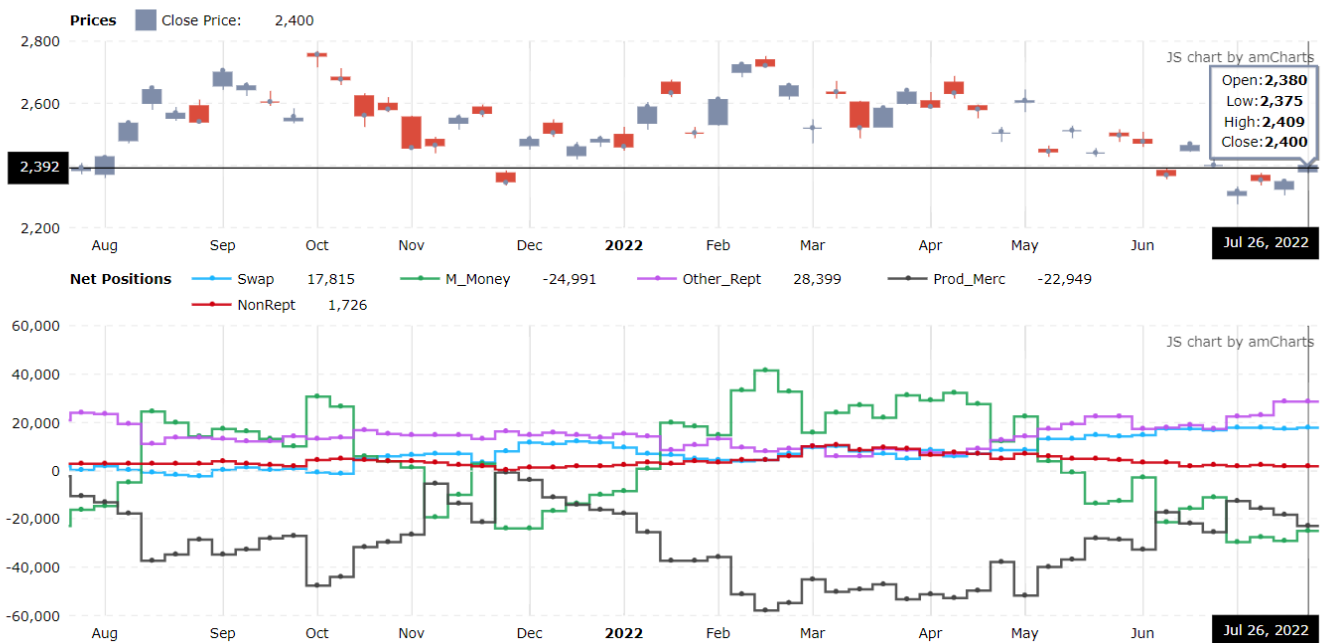
11. ファンド勢のNY先物は純売り越しポジションが減少(7/31)

ニューヨークのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、純売り越しポジションを 4,322 ロット減少 (先週は 1,280 ロット増加) させ、23,837 ロットとした。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、7月26日) の取引が含まれている。

- 純売り数量は過去4週間で最も少ない。
- 総買い数量は 1,428 ロット増加 (先週 1,678 ロット減少) し、61,787 となった。
- 総売り数量は 2,894 ロット減少 (先週 398 ロット減少) し、85,624 ロット となった。
- 総売り数量は、過去4週で一番少ない数字

参考分析資料；過去1年のNY市場の実需家VS投機筋のポジションと相場価格

Prices & Net Positions



黒線・・・カカオ磨砕業者やチョコレート製造会社など実需家

緑・・・ヘッジファンドなどの資金運用者

水色・・・投資銀行などスワップディーラー

12. ファンド勢のLDN先物は純売り越しポジションが減少。(7/31)

ロンドンのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、先週の純売り越しポジションを 4,904 ロット減らし (先週は 5,474 ロット増加) 6,541 ロットとした。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、7月26日) の取引が含まれている。

- 総買い数量は今週 1,507 ロット増加 (先週 1,949 ロット減少) し、18,486 ロットとなった。
- 総売り数量は今週 3,397 ロット減少 (先週 3,525 増加) し、25,027 ロットとなった。

参考) ロンドン市場の主要なプレイヤーのポジション状況

Commitments of Traders Futures and Options

ICE Futures Europe

26/07/2022

MktDate	OI	Producer/Merchant/ Processor/User		Swap Dealers			Managed Money		
		Long	Short	Long	Short	Spreading	Long	Short	Spreading
26/07/2022	303877	184473	183203	31834	33461	20108	18486	25027	10817
Percent of Open Interest Represented by each Category of Trader									
26/07/2022	100%	60.7%	60.3%	10.5%	11.0%	6.6%	6.1%	8.2%	3.6%
Number of Traders in Each Category									
26/07/2022	144	54	42	12	9	11	18	24	17

13. 新商品情報：チョコレートとお酒のペアリング体験を自宅でも楽しんでもらいたい！

Minimal、お酒の販売を7月29日より開始

株式会社βace（東京都渋谷区、代表取締役：山下貴嗣）が展開するチョコレート専門店 Minimal（ミニマル）は、富ヶ谷本店・代々木上原店にて、チョコレートに合わせて楽しめるお酒の販売を始める。第一弾として7/29(金)よりクラフトビール「京都醸造」の商品の販売を開始した。



京都醸造のクラフトビール「一意専心」「黒潮の如く」

京都醸造は、アメリカ出身のクリス・ヘインジさん、ウェールズ出身のベン・ファルクさん、カナダ出身のポール・スピードさんによって作られたメーカーで、理想とするユニークな新しいビールを、「日本の伝統のある町”京都”から作り出すことを大切にしている。

「一意専心」は、ベルジャン酵母とアメリカンホップで造られた IPA で、シャープでこちょよい柑橘香の特徴が、ベルジャン酵母のフルーツ感とバランスよくまとまり、他の IPA にはない味わいとなっている。



「一意専心」ペアリング例

「黒潮の如く」は黒色麦芽由来のロースト感とベルジャン酵母由来のフルーツ感がまとまった深い味わいでしっかり満足感のあるスタウトとなっている。



「黒潮の如く」ペアリング例

今までは代々木上原のイトインでしか楽しめなかったお酒とのペアリング体験をこの機会に自宅でも楽しんでみてはいかがでしょうか。今後さらにナチュラルワインや焼酎など、ラインナップも追加される予定だ。

*説明および写真は下記プレスリリースより

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000085.000012047.html>

14. 再掲) イベント：ベネズエラサプライヤー「chuo trading」来日セミナー 8/26(金)開催！

この度、株式会社立花商店は、ベネズエラサプライヤー「chuo trading」来日セミナーを開催致します。



日時：2022年8月26日（金）15:00～16:30

場所：LIFORK MINAMI AOYAMA

東京都港区南青山1丁目12-3

（対面だけではなく、ZOOMを使ったオンラインイベントも同時開催）

参加方法：以下内容を添えて本メールの返信にてご連絡をお願い致します。

- ①会社名（ブランド名）
- ②来場 or ZOOM
- ③参加人数
- ④参加者御名前
- ⑤事前の質問、興味関心事項、要望など（任意）

イベント内容：

現在弊社では、ベネズエラの中でも「チュアオ」と呼ばれる地域のカカオ豆を取り扱っております。450年以上にわたり伝統を守りながら、希少性の高いカカオ品種を生産し続けてきた、チョコレート業界では有名な地域です。（昨年のイベントの様子はこちらから：<https://youtu.be/CHKFokRBkus>）しかし実は、ベネズエラにはチュアオ以外にもバラエティーに富んだフレーバーを持つカカオ豆を生産している地域がいくつかあります。今回はその中でも、立花商店メンバーがサンプルを取り寄せ、厳選した新しい地域の豆をいくつかご紹介いたします。皆様からご意見を頂戴した上で、今後輸入するかどうか検討していきたいと考えています。

※参加費無料

※来場参加人数 限定30名

普段はベネズエラにいるサプライヤーが来日する貴重な機会となっております。

皆様からのご応募、お待ち申し上げます。

カカオニュースの配信の削除、追加のご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp

*本ニュースの相場情報は、客観的なデータの報告及び、著者の主観的な意見を述べるものであり、一切の取引の推奨を目的としたものではありません。カカオ先物、及び現物の取引におかれましては各個人様、法人様のご判断に基づいて行って頂きますようお願い致します。